

「2015年6月27日キッズリーダー講習会&キッズフェスティバル 結城」レポート

1) キッズリーダー講習会

6月27日に鹿窪運動公園にてキッズリーダー講習会（U-8）を実施致しました。このキッズリーダー講習会はキッズに関わる大人の方を対象に行う講習会で、昨年も200名を超える方に茨城県で受講して頂きました。今回は26名に受講して頂きました。



講習会では講義と実技の両方を行います。今回は講義を約90分で行い、『子どもの発育発達』、『子ども達のサッカー』、『子ども達への接し方』などを伝えさせて頂きました。

実技では受講者の方（大人）に『からだを動かす楽しさ』、『からだを動かす喜び』を感じて頂くことを目的にメニューを作成しました。最初は受講者の方の緊張をなくすために「アイスブレイク」でペア作り等を行いました。続いて「アイスブレイク」の要素を含んだ「動き作り」、「2人組鬼ごっこ」を行い、メニューは大人の方が楽しめるものでしたが、「U-8年代の選手であったら」と解説も行き、楽しみながら学んで頂けたのではと思います。



その後、「ボールフィーリング」では2人組でボール2個使いながら様々なことにチャレンジしていただきました。そのあとは、ドリブルと、キック（トーキック・インサイドキック）を体験していただき「動き作り」同様に「U-8年代の選手の特徴」を解説しながら、楽しんでからだを動かして頂けたと思います。



実技終了後、そのまま閉講式となりました。受講者の方1人1人にグリーンカードをお渡しし、全員で集合写真を撮影し講習会は終了しました。

講師コメント 堀之内 寛 (JFA公認キッズリーダーインストラクター・茨城県キッズ委員会)

今回3回目となる結城市でのキッズリーダー講習会の開催でしたが、保護者の方も多く、キッズリーダーに興味をもっていただけたことを嬉しく思います。講義中も時折うなずいていただきながら、また、受講者にも発言していただく場を増やしながらか進めていきました。実技の部分でも講義の部分とラッピングするように、この年代の特徴をふまえたうえでの、かつ、楽しみを感じながら進める中で受講生にとっては身体的にきつい場面もあったかと思いますが、最後まで笑顔を絶やさず参加いただきました。午後のキッズフェスにも多くの方に指導実践に参加いただき、より実践の場に近い形で関わっていただけたと思います。今回の講習をきっかけにより一層みなさんがキッズの為に良い環境を提供していただければ幸いです。

参加者コメント

- 大人が気づかない視線が実感出来た (40代男性)
- 上手にプレーできない子への接し方があるとよかった (40代男性)
- 子供には、色々な遊びをまじえてスポーツをさせようと感じられよかった (40代男性)
- 子供たちへの対応が変われる自信がついた (50代男性)
- 子供たちよりも、親が基本的な知識が必要だと思いました (50代男性)
- 16歳で受けられるということが魅力で受けました (高校生男子)
- 今回の講習会を受講して子どもへの接し方を学ぶことが出来ました (40代女性)
- 子供の立場、体力に合わせて接していければと思いました (40代女性)
- 遊びの中にもサッカーに通じるものがあったことを知りました (40代女性)

2) キッズフェスティバル

午後からは小学生3年生以下を対象として約60名のキッズを対象にしたキッズフェスティバルを開催しました。このイベントでは、チーム単位で申し込みしてくる子どもや個人参加で申し込まれた子どもが一緒になって、グループを作ってトレーニングとゲームを行いました。6つのステーションを作り、トレーニングを「ドリブル」、「シュート」、「ボールフィーリング・鬼ごっこ」の3つと、形を変えたゲームを行いました。



各ステーションでは、午前中にキッズリーダー講習会を受講していただいた指導者・保護者の方に即席「コーチ」になっていただき、トレーニングの進行・説明を行っていただきました。始まる直前は各ステーションから緊張した面持ちが伝わってきましたが、始まってからはみなさん大きな声で子どもたちと関わり、楽しそうな雰囲気が伝わってきました。子どもたちも普段とは違う環境に最初は戸惑った様子でしたが、終わるころには笑顔がたくさん見ることが出来ました。

こどもたちは純粋にコーチに関わりながらサッカーを楽しむ様子がみられ、特にゲームでは背面ゴールなどの特殊なルールを用いきましたが、子どもたちはすぐにルールを理解し、ゴールを目指しました。大きなコートでのゲームでもしっかりボールを運びゴールをめざしながら、大人の指導者の方も一緒に入ってゲームをする喜びを感じていたようでした。

指導者の方はキッズフェス終了後に振り返りを行いました。思ったより子どもたちに伝えることを難しいと感じたようで、実際の現場での指導者の方の気持ちも理解していただけたようでしたが、実際に自分たちがゲームに入って楽しむことの重要性も感じていただけたようでした。

